

平成 27 年度第 1 回環境審議会

議 事 録

平成 27 年 6 月 12 日 (金)
あだち再生館 2 階 会議室

(開催概要)

平成 27 年度第 1 回環境審議会

会 議 名	平成 27 年度第 1 回環境審議会		
開 催 年 月 日	平成 27 年 6 月 12 日		
開 催 場 所	あだち再生館 2 階会議室		
開 催 時 間	午後 3 時 30 分から午後 5 時まで		
出 席 状 況	委員現在数 14 名 出席委員数 12 名		
出 席 委 員	田中 充	高村 淑彦	藤沼 壮次
	ぬかが 和子	小泉 ひろし	大竹 さよこ
	佐藤 強士	広澤 マサ子	遠田 明子
	田邊 治代	長谷川 京子	石川 義夫
事 務 局	環境部 環境部長 環境政策課長 ごみ減量推進課長 清掃計画担当課長 足立清掃事務所長 生活保全課長		
会 議 次 第	別紙のとおり		
会議に付した議題	1 報告事項 2 意見交換 3 その他		

(会議経過と議事の要旨)

事務局	<p>会長が少し遅れるため、先に委員の紹介と資料の確認、事務局からの報告を行う。まず、委員と事務局について異動があったので報告する。</p> <p>5月17日に足立区議会議員選挙が開催され、区議会から選任される委員が代わっている。引き続き委員を務めるメンバーもいるが、改めて紹介させていただく。</p> <p>(区議会選任委員の紹介)</p> <p>4月に人事異動があり事務局も職員が変わったので、環境部の幹部職員を紹介させていただく。</p> <p>(事務局紹介)</p> <p>次に配布資料の確認をさせていただく。大変申し訳ないが、事前に送った資料の差し替えがあるため、席上に配らせていただいている。</p> <p>その他に席上に配布した資料は3点ある。1枚目は本日の次第で裏面が席次表である。2枚目は委員名簿である。裏面はあだち再生館の平面図が載っている。3枚目は追加配布資料で、報告事項7を席上に配布している。追加した資料の報告7は、6月7日(日)に鹿沼の植林体験の資料である。日にちがあまりないので事前に資料を送れなかったものである。</p> <p>最後に、前回の議事録を席上に配布している。不足があれば事務局までお願いします。</p> <p>次に事務局から1点報告する。</p> <p>全国で環境問題に精力的に取り組む50の自治体が加盟する環境自治体会議という組織があり、足立区も参加している。今年は5月21日から23日までの3日間に奈良県生駒市で全国大会が開催された。</p> <p>この全国大会では、「わがまちの環境自慢コンテスト」があり、足立区がひかり賞を受賞させていただいた。足立区が受賞したのは全国初の木製粗大ごみの資源化である。家具などの木製の粗大ごみを、素材別に分け、パーティクルボード再生して、建設資材として使うものである。木製家具のリサイクルの仕組みを作るものである。</p> <p>このコンテストは全国から6自治体がノミネートして生駒市の会場でプレゼンテーションを行い、プレゼンテーションを聞いて</p>
-----	--

	<p>た会場の方と専門家の投票で賞を決める。</p> <p>環境自治体会議の事務局によると足立区が受賞したひかり賞は、大賞に次ぐ準優勝的なものである。田中会長が賞の選考委員長も務めていたので、コメントをお願いします。</p>
会 長	<p>ひかり賞に輝いた足立区の実績は、全国の自治体の中でも進んだ取り組みである。会場に参加していた皆様から票もいただき、アンケートにも「参考になる取り組みである。」と書いてあった。非常に誇れる取り組みである。</p> <p>それでは、本日の出席委員の確認をお願いします。委員定数 14 名、出席委員 12 名である。環境審議会は成立している。</p> <p>次に本日の議事録署名人を藤沼壮次委員、石川義夫委員をお願いします。</p> <p>議題に沿って報告事項からをお願いします。報告事項 1 からお願いします。</p>
事務局	<p>報告 1 は次期環境基本計画の策定についてである。</p> <p>平成 24 年度に改定した第二次環境基本計画の計画期間が平成 27 年度で満了する。次期基本計画等の策定について、本来であれば 28 年度を初年度とする計画を作るが、現在、29 年度を初年度とする足立区の基本構想・基本計画を作っている。次期環境基本計画についても 29 年度を初年度とする計画を作っていくため、28 年度については現計画を 1 年延長する。</p> <p>延長する 1 年間については、既に目標数値が達成したものについては、新たな目標を環境審議会でもご意見をいただき、目標設定を行う。達成していないものについては、引き続き行う。</p> <p>次期計画の策定については、夏にコンサルティング業務の委託について公募して決めていく。環境審議会の委員については、議会選出の方を除いて、秋に期間満了になる。このため、新たな委員を選任し、新たな体制で 10 月に区長が審議会に諮問し、次期計画の策定に関わっていく。</p> <p>次期計画で検討すべき主な課題については、地球温暖化対策地域実行計画と、生物多様性地域戦略を盛り込むこと、地球温暖化の適応策をこれまで以上に盛り込むこと、区民・事業者が自主的に環境行動を実践する仕組みを作ること、エネルギーを効率的に使う仕組みなどが挙げられる。</p>

足立区は、昭和30年代から40年代に開発されたため、都市更新の時期を迎えている。これをきっかけとして、エネルギーを地域でうまく使うスマートシティーの考えを入れこむことも次期の計画で盛り込みたい。

昨年度、皆様にご審議いただき、環境モデル都市の構築に関する調査を行い、提案書の形でまとめた。しかし今年度は環境モデル都市の提案の受付を行わないため、この結果は、次期環境基本計画の策定でエキスを取り込んでいく。

別冊で昨年の調査を、「みんなで学び考え、実践する生活環境都市」としてまとめた。3月の審議会では提案書形式で渡し、今回は調査のまとめをした。その中で、足立区に求められる5つの課題が挙げている。

ボトルネック的課題への対応、都市更新、地域の安心・安全の確保、持続可能な社会、さまざまな主体との連携の5つである。

例えば温暖化が進めば新たな感染症、災害等が増える。これをどのようにするか。環境保全と社会経済活動の調和を将来どのように図っていくか。また、さまざまな主体との連携では、足立区で体験できない自然体験を友好都市と交流等を図りながら連携していく。

3ページ目は足立区の環境政策の基本的方向である。1つ目は環境学習と人材育成である。環境を学び考え、行動する持続可能な社会にするためには、人づくりが必要である。

2つ目は地域特性を踏まえたエネルギー対策である。特に大都市でかつ、地形が平坦な足立区の地域特性を踏まえ、大都市でも活用できる太陽エネルギーの活用と、自転車の活用やエコカー導入による交通の低炭素化を測っていくべきである。

3つ目は、大都市における循環型社会モデルの構築である。足立区は廃棄物リサイクル事業者が非常に多いので、こうした事業者を活用した取組みも行っていく。

4つ目は、地球を視野に入れた連携である。足立区の自然環境は乏しい部分があるので、豊かな自然を持つ友好都市と連携していく。

5つ目は災害・環境変化への対策と適用である。すでに予防だけではどうしてもできない部分がある。温暖化に適應できる都市を考えていかなければいけない。

こうしたことを踏まえ、10年後の足立区のイメージとして「学

	<p>び、実践する都市」「環境と経済が調和する都市」「地球環境に貢献する都市」「災害・環境の変化に対応できる都市」として整理し、様々な主体が誇りを持ち活動するみんなで学び考え、実践する生活環境都市を提案していく。</p> <p>こんな形で皆様の意見をいただき、取りまとめている。これを次回の環境基本計画の中に取り込んでいく。</p> <p>私からの説明は以上である。</p>
会 長	<p>報告 1、別冊の環境都市の構築に関する調査のまとめの概要を紹介した。報告事項 1 についてご意見をいただく。</p>
委 員	<p>昨年 1 年間かけて皆様の意見を反映し、環境都市の構築に関する調査のまとめ、提案ができたと思う。現状では、環境モデル都市の募集がなく、制度を見直ししている状況である。今回のまとめを基本計画の中にも反映していただきたい。</p> <p>国がどのような方向性を出すかわからないが、経済と環境の好循環という視点で、様々な省庁のモデル事業がある。環境についてモデル事業があれば必ず手を挙げていただきたい。</p> <p>二酸化炭素の削減についても大胆な目標を持って取り組む。大きな構えを持って皆で取り組む決意で議論し、反映してほしい。</p>
会 長	<p>意見として承る。特に目標作りは高めの目標、チャレンジする意欲的な目標でもよいのではないかという意見であった。他の点はいかがか。</p>
委 員	<p>昨年の 1 月 15 日に江東区の施設を見学し、子どもたちにも楽しく教えていた。江東区はオリンピックに向けて素晴らしい街になる。楽しみである。</p> <p>足立区は安心・安全な街づくりに人間と自然のかわり、人間と便利な関わりをどうするか考えているか。オリンピックまであと 5 年である。オリンピックで町がどのように変わるか。足立区でも素晴らしい環境の場所がたくさんある。</p>
会 長	<p>オリンピックに向けて区として、どのようなまちにしていくか。新しいまちづくりの方向性には、環境を含めてほしい。区の基本構想・基本計画の検討が始まるが、オリンピックは影響があ</p>

	る。
事務局	<p>区長もオリンピック・パラリンピックに向けて、区としてどのような遺産・レガシーを残すか、検討すべきと言っている。具体的には、外国から人を迎え何ができるか。環境を含めて今後検討することは、これからの課題である。</p> <p>オリンピックが終わればそれまでという一過性のものではなく次の世代に残すことが大切である。環境も同じである。具体的には区全体でも検討し、環境部としても具体的に検討する。</p>
委員	<p>将来のことだが、水素社会にする動きがある。足立区でも将来に向けて水素社会にするための方向にも、目を向けてほしい。あまりよくわからないが、水素スタンドができればよい。これからは車もできてくる。</p>
会長	<p>水素社会は、確かに将来社会のキーワードになっている。以前に環境審議会でも東京ガスの施設見学を行った。先進的な部分では取り組みが始まっているが、住民レベルにはもう少し時間がかかる。新しい技術への対応として見ていく。</p> <p>次期環境基本計画を新しい要素を取り込みながら計画作りに向かっていく</p> <p>それでは、報告事項2から報告事項7までを一括して報告し、その後全体審議をお願いする。</p>
事務局	<p>報告事項2は平成26年度の区内エネルギー使用量である。</p> <p>東京電力、東京ガスから提供されたデータを報告する。環境基本計画の目標は、平成27年度に22年度比で電気は10%、都市ガスは2%削減の目標を掲げている。26年度の電気については12.7%、ガスは2.9%の削減で目標を達成している。</p> <p>報告3は、平成24年度の区内温室効果ガス排出量の算定結果である。オール東京62市区町村共同事業の「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」で算定している。</p> <p>2012年の足立区の温室効果ガス排出量は、京都議定書の基準年である1990年度と比較すると2.1%減である。ハイドロフルオロカーボン類が増えているが、これは、オゾン層を破壊するフロン¹の代替ガスである。</p>

4 ページに部門ごとの排出量が出ている。基準年比でみると製造業は 62.6% 減、建設業は 11.8% 減である。しかし、家庭は 39.3%、業務は 38% と増加している。

5 ページ目に分析を載せている。製造業出荷額は足立区内の工場等がなくなり、60% 出荷額が減り、1 億円あたりのエネルギーも 27% 減少している。全体として製造業は減少している。

家庭は 1 世帯当たりのエネルギーは 24.6% 減っているが、逆に世帯数は 40% 以上増えているので、結果としては増えている。家庭ごとに冷蔵庫や風呂があるため、世帯数が増えればそれだけエネルギー消費量が増えていく。業務についても 1 平方メートルあたりのエネルギーは 15% 減であるが、延べ床面積が 30% も増えている。工場がなくなった後にオフィスや商業施設ができることが多い。

電力の CO₂ 排出係数は、東日本大震災の後で原子力発電所が停止し、化石燃料への発電が非常に高くなっているため、1 kW あたりの CO₂ 排出量は 1990 年の 1.36 倍になっている。同じ電力消費で単純に 1.36 倍の CO₂ が排出される計算になる。

報告 4 は地球環境フェア 2015 の開催結果である。

去る 5 月 30 日・31 日に開催し、委員にもお越しいただいた。来場者数は昨年より 38% 増え、2 万 2,000 人である。各イベントの参加者数は記載のとおりで、出展団体は 63 団体、スタンプラリー参加者は 2,000 人を超えた。今年の特徴の特徴として、3 つの友好自治体、カーボン・オフセットで連携した 3 つの自治体のほか茨城県つくば市と新潟県もブース出展をし、8 つの自治体が出展した。

また、事前の PR を強化し、ギャラクシティ・生物園等、子どもが集まる施設でチラシを配っている。小学校の全児童にもチラシを配った。事前に区のフェイスブックでシリーズ化して、つぶやきを続けてきた。都営バスにもポスターを掲示した。

来場者アンケートによると学校で配布したチラシで親子で参加した方が非常に多い。子どもたちが来てくれれば、保護者も一緒に来るので、集客効果がある。両日共に非常に暑い日だったが、特にトラブルもなく楽しんでもらった。土曜日が少ない理由は運動会・地域のイベントがあることだと考えられる。

報告 5 はカーボン・オフセットである。カーボン・オフセットとは、自らの活動において排出する二酸化炭素のうち、削減努力

をしても削減できないものを、他の場所でのCO₂の削減、吸収量のクレジットを購入して埋め合わせ・相殺を行う制度である。

地球環境フェア 2015 では、想定排出量は 8.2 トンで、秋田県八峰町、新潟県阿賀町、高知県から 3 トンずつ購入、環境にやさしいイベントのアピールも行っている。

カーボン・オフセットの証明書は自治体が工夫を凝らし、木を使った証明書である。資料には地球環境フェアのセレモニーで自治体の担当者と区長と一緒に撮った写真を載せている。

もう一つ、清掃車の走行で 1 年間に排出する CO₂ をカーボン・オフセットする取り組みを行う。清掃車は月曜日から土曜日まで毎日、足立区内をくまなく走っている。清掃車も削減努力をしているが、プレス車は架装部分に力が必要なのでなかなかエコカーは出てこない。

今回は、清掃車の CO₂ 520 トンをカーボン・オフセットする。オフセット・クレジットは、3 つの自治体と見積もり合わせを行い、一番安く提示した阿賀町の「阿賀悠久の森プロジェクト」を購入した。66 台のプレス車に貼って CO₂ ゼロの清掃車で森づくりに貢献していることをアピールする。ネットで調べたが、全国の自治体で行っている例は確認できず、おそらく全国初の取り組みである。7 月から始めて 6 月末にはプレスに流す。足立清掃事務所と調整しながら進めていく。

次に報告事項 6、あだち環境ゼミナール第一期の実施結果及び環境マイスターの認定について報告する。昨年 9 月から 3 月まで環境ゼミナールを毎月第 3 水曜日の夜間に 7 回開催し、28 名が参加した。

ゼミナールの内容は記載のとおりで、講座に 7 割以上出席し、修了レポートを提出した 23 名を環境マイスターとして認定し、5 月に環境マイスターの会を発足した。地球環境フェアには 12 名のマイスターが運営に携わっている。今後も区の様々な場所で活躍していただく。現在、第二期の環境ゼミナール受講生を募集している。マイスターには第二期環境ゼミナールの運営にもかかわっていただき、昨年 9 月の経験を踏まえたゼミナールの取り組みにする。

最後に報告事項 7、栃木県鹿沼市と連携した環境事業として 2 件を実施した。1 点目は親子米作り体験で 5 月 24 日に開催した。1 回目は田植えを行い、2 回目に稲刈り、3 回目は収穫祭で実際

	<p>に味わうもので3日間全てに参加できる方を募集した。その結果、40名募集のところ20倍の800人から応募があり、関心の高さがうかがえた。残念ながら受け入れ先の関係もあり、抽選で40名を選んだ。鹿沼市の農政課と、ふれあいみどりの村の方々に協力していただいた。</p> <p>裏面は先週の日曜日に植林体験で環境を考える旅として日帰りで植林のツアーを実施した。10グループ18人の参加があり、鹿沼市林政課とボランティア団体「がっこ山部会」に協力いただき、コナラの苗を80本植えた。お昼は地域の食材で作った料理を食べ、午後は鹿沼市自然体験交流センターで木工の体験を行った。足立区に戻るバスの中でのアンケートによると、満足という回答が多かった。天気も良く皆様にも楽しんでもらった。</p> <p>私からの報告は以上である。</p>
会 長	<p>報告2から報告7まで主なイベントや環境のトピックを紹介していただいた。審議・意見をお願いします。</p>
委 員	<p>報告3について質問する。家庭部門が多く占めているが各家庭で非常に頑張っているのので、データで見れば世帯あたりは前よりも下がっている。家庭部門はどのような対策をすればよいのか。</p>
委 員	<p>テレビにごみ屋敷が出ていて、名古屋市の方が「足立区のごみ屋敷担当者に名古屋に来ていただきたい。」と話を聞いた。ごみ屋敷の人は孤独であると聞くと聞くと、親戚がいないのか。</p>
委 員	<p>足立区に引っ越して間もないので、再生館を初めて見た。22日に地域で環境について皆で話を行う。どのような分かりやすい環境の話をするか。</p> <p>以前団地に区職員が来て、非常に分かりやすく説明してもらった。皆様のごみに対する意識が高まった。今度は違う場所でもう一度話をしていただきたい。</p> <p>再生館にみんなが来て、皆が環境に対して意識を高める方法を、どのように広めていけばよいか教えてほしい。</p>
委 員	<p>新しく区民となった方へ「足立区は、環境についてこんなことを行っている。足立区はこんな状況である」と情報公開をすれば</p>

	<p>数字的にも効果がある。転入時にどのような情報公開をしていくのか。</p> <p>地球環境フェアの事前PR効果があつたとある。子どもたちがチラシを目にして「行きたい。」と意識が出ている。事前のチラシ配布は非常に良い。大人になってから考えるのではなく。子どもの時代から目に焼き付けて環境の取組みを行うことが非常に大事である。</p>
会 長	<p>4名の委員から質問や意見が出ている。家庭部門の排出量対策、情報公開のあり方、子どもたちを含めたPRの仕方、子どもへの働きかけ、環境問題はどのような話をすべきか、再生館の活用の仕方、ごみ屋敷問題等が出た。これらについて事務局担当から回答していただく。</p>
事務局	<p>まず、家庭のCO₂に関し、各世帯では省エネの取組みを行っているので世帯当たりの排出は減っている。しかし、今は世帯の人数が減り、核家族より1人世帯が非常に増えている。65歳以上の高齢者の1人暮らしが非常に増え、これにより世帯数が増えている。</p> <p>家庭の省エネについて足立区で行っていることは、省エネ性能の高い5つ星家電への買い替えについて補助金を出している。照明もLEDに替えればCO₂排出を削減できる。ただ、世帯数を減らすことは我々の力でできることではなく様々な課題がある。皆様が使いやすい補助金等で省エネ機器が広がればよい。</p> <p>次に地域の講座の話である。要望があれば職員が行っている。気軽に声かけをしてほしい。</p> <p>転入世帯が増えているが、省エネPRを行えばCO₂の削減につながる。足立区では、区の様々な取組み用パンフレットをセットにして転入時に区民事務所で配っている。すでに非常に厚いパンフレットであるが、ひとつのきっかけになるので、省エネについても資料に入れてもらえるか検討する。</p> <p>子どもたちの事前PRは重要である。今後、家族連れで来てもらえるように子どもたちへのPRも強化していく。</p> <p>名古屋のごみ屋敷については、「テレビで放映すれば市が動くかもしれない。」と前ふりがあつた。テレビで報道されたので名古屋市長も動かざるを得なくなった。その時は道路に出ているごみ</p>

	<p>だったため、道路法で「足立区なら確実に片づけている。」と話をした。</p> <p>「ごみ屋敷は1人住まいが多いのか」という質問があったが、確かに多く、理由は高齢化に伴うことが多い。昔のごみ屋敷は収集癖のある方がごみ捨て場から様々なものを集めて庭に溢れて人に迷惑をかける。それがごみ屋敷と呼ばれている。</p> <p>今は中からごみが出るパターンが多い。サービスが進み、食料品などの商品もインターネット1本で届く。しかし、ごみを片付けるサービスはない。足を悪くすれば近くにものを置きたくなり、ごみ捨て場に行けないため、ごみが部屋の中に増える。</p> <p>今後も非常に増えていく話である。30年後には半分がごみ屋敷になる可能性がある。住宅施策を総合政策として行わなければいけない。</p> <p>足立区は相談件数が累計で400件あるが、解決率が7割を超えている。300件から400件の中では3年で解決している。そのことを皆様に認識していただきたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>他のことも含めてご意見等はあるか。</p>
<p>委 員</p>	<p>1つ提案したい。6月5日は世界環境デーであるが、世界的スターが勧める「1週間に1度肉を食べない日」がある。彼が勧める「1週間に1度肉を食べない日」は温室効果ガスを削減する取り組みの一つである。人間の活動によって排出される温室効果ガスのうち、食肉生産から生じる総量は、自動車・飛行機等の輸送手段より排出される量よりも多い。国連の食糧農業機関の調査で、食肉生産から生じる温室効果ガスは18%で、自動車・飛行機等の輸送手段により排出される温室効果ガスは15%と調査が出ている。</p> <p>足立区では6月は「野菜を食べよう」月間になっている。野菜を食べることは糖尿病予防にもつながる。足立区は糖尿病患者が非常に多いので、野菜を食べる取り組みも行っている。これに連動して肉を食べるなというのは乱暴であるが、できれば肉を食べないことで、温室効果ガス削減につながる取り組みもいかがか。</p>
<p>会 長</p>	<p>食についての新しい発想で面白い。肉を食べないことは様々な</p>

	<p>ことに影響が出る。他にはいかがか。</p>
委員	<p>地球環境フェアと友好自治体との連携の2点について質問する。地球環境フェアは非常に頑張っている。1年前は「セレモニーの参加者が少ないので、発表する人も残念である。」という状況だったが、今回は席も埋まってよかった。</p> <p>友好自治体をはじめ新たな出展者が出たことは素晴らしいが、既存の区内団体をさらに良い関係で増やしてほしい。既存の区内団体の様々な環境の取り組みが一堂に会する場合は、地球環境フェアしかない。今年もたくさん出ていただき、本当に良い取り組みが明らかになる。</p> <p>「ネクタイで作ったものを買ってきた知り合いや、太陽光を使った太陽光照明の展示があった。太陽光を取り入れて照明をすれば明るくなる。ある意味当たり前だが、明りを明りとして使うため効率も良い。4年前の震災直後、太陽光を使った照明を足立区内で行うところはなかったが、足立区でも行うところが出てきている。</p> <p>毎年出展しているヤゴ救出大作戦も、「足立区の1つのプールでヤゴが130も出て救出されるとは思わなかった。」と大人が驚いて興奮している。ギンヤンマのヤゴが足立区で発見されることは良い体験である。</p> <p>1つ1つの足立区内の取り組みを増やす。ブースも限られて大変だが、来年に向けて工夫をしていただきたいことが1点目である。</p> <p>2点目は鹿沼の田植え体験である。先ほど「800人の応募があったが受け入れの関係で40人になった。」の話は非常に心苦しい。相手の関係もあるが、仕組みの再構築等も含めて来年度以降、充実できる方向性を考えてほしい。</p> <p>先日、町を挙げて森林をどのように大切にするかを進めている栃木県茂木町に調査に行った。国の法律が変わって木造・木質化がやりやすくなった。学校の全国調査で、木造・木質に囲まれた学校では情緒・安定度が違うと聞き、驚いた。木造・木質は生きた自然を学べる場でもある。</p> <p>全国に先駆けて行った茂木町を教訓にして国の法律も変わり、鹿沼市にも取り組みが広がっている。都市部でも木質化は進んでいる。まちづくり・建築の課題にもなるが、それも含めて環境で</p>

	<p>あるので、検討してほしい。</p>
委員	<p>省エネ機器等の補助について質問する。私も子ども部屋のクーラーが壊れて買い換えの予定があったが、5つ星が補助対象とはいわれなかった。高いものをつける必要はないと判断し、安い商品に替えたら5つ星ではなかったので補助対象ではなかった。</p> <p>補助制度の細かな設定は区民にとって分からない。補助がもらえると聞いてもらえと思ったが、もらえなかった人は私だけではない。</p> <p>もう1つは自転車による健康づくりである。足立は平坦な道で坂がなくまっすぐで自転車は非常に良い。6月1日から自転車の法改正ができたが、自転車の乗り方の基礎的なことが区民の方に浸透していない。小学校3年生は、警察の方が教習を行い、その日から乗れる制度になっているので、こうした教育をしてほしい。自転車利用の施策を進めるならば、一緒に考えていかなければいけない。</p>
会長	<p>ここまで3名の委員から意見・質問が出ている。事務局から回答させていただく。</p>
事務局	<p>肉を食べない提案が出たが難しい。足立区や日本の食文化に合うかを含めて、1つの提案として考えさせていただく。</p> <p>地球環境フェアについて、お褒めの言葉をいただき、感謝申し上げます。職員が頑張った結果が表れている。区内の既存団体の取組みの紹介が足りない部分があるが、様々な活動を行っている方に声をかけて出展していただく。知り合いの団体があれば声かけをするなどできる限りのことを行う。</p> <p>鹿沼の米作りに多くの方が応募していただいたが、田んぼの数に限りがあるため、人数を単純に増やすことは難しい。学校で行う田んぼ体験もあるが、子どもたちだけではなく親子で行うことが1つのミソである。保護者も子どもも喜んでいと聞いている。</p> <p>鹿沼市は、これから公共施設を全て木造にする方針であり、体育館も木造である。木の香りもよく人間の体にも良い。足立区では、建築基準や防火の関係で木造は難しいが、木質については十分取り入れられる。木質だけではなく環境にやさしい大気の取り</p>

	<p>入れ・地中熱・太陽光・太陽熱を我々も提案し、モデル的な公共施設を考えている。</p> <p>省エネ機器のPRが行き届かず申し訳ない。今回の補助は5つ星に限っている。今回は国から全額の補助があるが、すでに他の補助制度で行っていることは、国の補助の対象にならないため、最高ランクの5つ星の家電を買った場合に一部を補助する制度にしているが、電気店でも複雑でわからないところもあり、お叱りを受けている。改めてお詫びさせていただく。</p> <p>自転車の乗り方の教室に関しては全小学校で20年以上前から、毎年実施している。地域の方々に研修や講座を行うためには、警察の協力がなければ難しい。区には交通対策課があるので、ご意見を伝える。</p>
会 長	<p>食生活の話があったが、環境にやさしい食生活という考え方、肉、特に牛肉はエネルギーや水をたくさん使う。食生活に関するデータを提供し、区民に問題意識を持たせることも必要である。</p>
委 員	<p>新聞に「二酸化炭素排出を減らす為には、野菜をトラックで遠いところから運ぶのではなく地産地消を勧めることが重要である。」と掲載されていた。人には触れ合いたい気持ちがあり、人の輪を広げることが大切である。区でも住民参加で、ほうれん草などを作りみんなで分けるように活用すればよい。</p>
会 長	<p>ここまで多面的に活発な意見をいただいた。多岐にわたり意見・指摘を行っていただいたので、政策面や環境行政でも活用していく。意見を受け止めて工夫していただきたい。次年度以降に向けて見直し点・反省点があるので、よろしく願います。</p> <p>最後に足立区再生館について意見交換を行う。資料説明を事務局から願います。</p>

事務局	<p>リサイクルセンターあだち再生館は、指定管理者の方が頑張っているが、利用者が限られたリピーターになっているので、施設のあり方について率直な意見等をお願いしたい。</p> <p>この施設は、平成9年に東京都と足立区で合築した施設で、平成12年の4月1日の清掃移管に伴い区に全面的移管された。平成23年までNPO法人あだち環境・リサイクル協会に運営を委託していたが、平成24年から指定管理者制度を導入し、三菱地所コミュニティが平成29年3月31日まで指定管理者となっている。</p> <p>実施事業は、リサイクル体験講座、リサイクルショップ、おもちゃトレードセンター事業である。過去3年間の実績を見ると、利用者は25年度から26年度は伸びており、指定管理者が非常に頑張っている。ただし、指定管理委託料が年間2000万円以上かかっている。</p> <p>施設の課題は、新しい利用者が増えているのではなく、利用者が固定化していること、駐車場がないため、小学校等の見学等が難しいこと、駅・バス停から遠いこと、我々の努力不足もあるが、知名度・認知度が低いことが挙げられる。</p> <p>再生館は、平成28年度に指定管理期間が終了するが、中期財政計画で29年度に改修設計を行い30年度に大規模改修工事を行う予定である。また、として、20年間、平成32年3月31日まではごみ処理・リサイクル関係の施設として使うことが東京都から移管されたときの条件になっている。</p> <p>施設の説明は以上である。</p>
会長	<p>施設をどのように活用すればよいか。平成32年で区切りになる。その後、どのように考えればよいか、という問いかけである。今後の中・長期的な展望について、また今のあり方について議論していただきたい。施設を見た感想を含めてお願いしたい。</p>
委員	<p>町会で毎月、回覧板で回っているので多少は周知しているが、交通の便が悪い。小型のコミュニティバスがあって停留所を作れば、お客様が増える。</p> <p>これまで前を通っているが入ったことはなかったが、今回様々なことを行っていることを知った。入ってみなければ分からな</p>

	い。
委員	<p>昨年 11 月頃に埼玉県加須市に行ったとき、人工的雑木林で回って木の実はたくさんいただき、自然はよいと思った。今の子どもたちは自然を知らない。例えば人間から出るものを昔は肥やしにしてまいていたという子どもたちは驚く。昔はこうだったという環境を作ると良い。</p>
委員	<p>自分も再生館を利用し、よい商品もあると思う。高齢者はたくさん物を持っているので、ショップでの再利用を呼び掛ける。これから私は再生館のチラシを持っていき、皆様に宣伝する。地域に貼っていただき皆に広めたい。</p>
委員	<p>再生館を使って教室を実施しているが、人数が 10 人と少ないので、広い場所は使わせてもらえず、お金を扱うことも規制されている。</p> <p>何か行うには手間やお金がかかるが、それができないため、よいものがないし、参加者も抽選になってしまうので、全員参加できない。もっと広く行えばよい。</p>
委員	<p>再生館ができた頃、子育て中だったので、大型家具のリサイクル品で展示されているものを買った。その後、家を建てる関係で出す側になった。</p> <p>駐車場のスペースはもったいない気がする。例えば小さいところで行っている教室を、たくさんの応募があれば駐車場も開放するのはどうだろうか。</p> <p>例えば夏休みの子どもたちに駐車場で工作するなどいつも使うのではないので、使う方向で考えてほしい。</p>
委員	<p>平成 32 年まであと 5 年、現状の形で使い続け、自由に使える時点で、どのような施設がよいかを考えていく。</p> <p>リサイクル単独ではなく、何かの施設と一緒に合わせたほうがいい。スーパーなど複合店舗にお客様が集まることと一緒にである。交通の便が良い場所・区の他の施設があるので、そこに合わせればお客は集まる。</p>

<p>委員</p>	<p>指定管理者制度開始直後から3年ぶりに再生館に来て、展示・構造も含めて頑張っていると思う。リサイクルセンターであるので、ごみ減量リサイクルが中心であるが、も温暖化・環境そのものにシフトするという意見が環境審議会でも出ている。今後のあり方としては、環境・温暖化の部分をしっかりシフトして将来を見据えた施設に進んでほしい。</p> <p>えこっくる江東が、地球がどれだけ温暖化が進んでいるかを子どもたちが見て触ることができ、ごみの出し方も触れて体験できる施設になっていたのも、リサイクルと温暖化の両方が体験できる施設にしてほしい。</p> <p>「必要な時はアウトリーチで出ていくので立派でなくてもよい。」という考えに私も賛成である。場所を改めることもよいが、こうした環境の拠点は絶対に必要である。環境・温暖化を考える拠点として発展させてほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>再生館の問題は最近始まったわけではなく、指定管理者になる前に働いている方から指定管理者になってからの変化も聞いている。</p> <p>資料を見れば全利用者は増えており、指定管理者も頑張っている。1人あたり500円以上かかる計算になるが、税金を投入してもよいことであればよい。</p> <p>課題の中にも書いてあるが、新規利用者の開拓が進まないという現実を受け止めなければいけない。認知度の点では広報に力を入れなければならないが、タダではできない。</p> <p>32年3月31日までは現状の使い方は変えられないので、あと5年弱現状で無駄な金を使わない。ただ環境施策・取り組みも時代の状況によって変わっているので、単純にリサイクルだけではなく省エネ・地球温暖化によるCO₂排出の観点のPRも大事である。</p> <p>拠点がここで行う必要があるか。違う場所が良いのではないか。5年弱と時間があるので考えてほしい。</p> <p>肉の話が出たが、例えば牛乳1本、パン1枚を生産するとき、どれだけCO₂が排出されるかを目で見て分かる展示をする。肉を食べると極論は言わないが、区民に対して地球温暖化防止の意味でもアピール方法がある。</p>

<p>委 員</p>	<p>スターバックス、雪印、伊藤園、カルビーと非常に良い取組みをしている。こうした取組みを知ることにより来る方が増える。</p> <p>区民レベルで簡単で楽しく学べる。足元から始めるエコ活動でスターバックスは良い取組みであるので、今後も企業と連携してほしい。5年間、再生館に来ていただく方の人数を増やすためにもPRにも力を入れてほしい。</p>
<p>委 員</p>	<p>私は再生館の指定管理者制度の選定委員で、評価委員も行っている。1年ぶりに来て非常にきれいになり、館長が変わり積極的に行われて非常に良くなっている。最初はショップだけがあって2階が何か分からなかった。</p> <p>来た方が満足してもう1回、来たいと思わせることと、認知度アップの2本立てで行う。回覧板は、貼るよりみんなが見るので、認知度を広める効果があるので、再生館だよりを回覧板で回せばよいと思う。</p> <p>2階もきれいになり、図書もたくさんあり整理されている。最初はショップも非常に汚く、買いたい意欲も湧かなかった。以前に比べれば良くなっている。</p>
<p>会 長</p>	<p>再生館は区民の宝である。みんなで使用・活用して利用できる、区民の皆様に使われる施設になればよい。</p> <p>事務局から用意した議題は以上である。最後に事務局から願います。</p>
<p>委 員</p>	<p>区議会議員の方を除く委員の皆様は今回の環境審議会をもって任期が終了となる。長い間、協力していただき感謝申し上げます。今後とも足立の環境の為に力をいただきたい。事務局からは以上である。</p>
<p>会 長</p>	<p>やや寂しい話であるが、このメンバーでの審議会は本日が最後である。各委員から一言ずつ感想なり、コメントをお願いします。</p> <p>(委員挨拶)</p> <p>7名の委員の皆様には大変感謝申し上げます。毎回、活発な意見をいただいた。本日も多くの意見をいただき、予定の時間を超過してしまい、申し訳ない。</p>

私も、規定により今回の審議会で最後である。足立区環境審議会は区民委員から活発な議論が出て、議員からは議員の立場・広い立場で意見をいただき、かみ合いながら行政を叱咤激励してきている。行政への提言機関・チェック機関として健全な役割を果たしている。行政にとっても良い刺激になり、政策の推進力にもなっている。この伝統を、次の審議会にもぜひ受け継いでほしいと思う。

(拍手)

以上で平成 27 年度第 1 回足立区環境審議会を終了する。